



Title	展示というアウトリーチ：博士人材の異分野協働と成果伝播の装置として
Author(s)	森岡，和子；澤田，真理子；飯塚，理恵 他
Description	RA協議会第10回年次大会：まるっとダイバーシティ～多様性の知から異なるバックグラウンドの力をけん引するURAとは～. 2024年10月16日(水)–10月17日(木). 主催：リサーチ・アドミニストレーション協議会. 沖縄科学技術大学院大学. 沖縄
Issue Date	2024-10-16
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/93930
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/
Type	conference poster
File Information	P098_RA10th2024.pdf





「書香の森」について

北海道大学文学研究院では、「書香の森」と名付けられた**学术交流と知の発信の場**があります。教員の著書を展示する書棚スペースとともに、美術作品等を展示する展示コーナーが設けられています。読書会などイベントも開催され、気軽な情報交換にも活用されています。

2022年3月からは新たに複数の研究分野の博士後期課程学生を中心とした大学院生が連携し、**自らの研究内容や成果を企画展示として公開する場**として、「**博士人材の異分野協働と成果伝播**」という機能を果たすようになってきています。

本発表の内容

- ★これまで開催された企画展示の事例紹介
- ★展示の波及効果
 - ～実践の拡大
 - ～外部資金獲得
 - ～出版等新たな研究成果へ
- ★展示に関わった大学院生からみた意義
- ★運営組織・URAの役割
- ★展示というアウトリーチの可能性





開講、木彫り熊概論！

- ・修士論文研究をもとに博物館学研究室で企画した初めての院生企画
- ・企画、展示デザイン、ポスター等印刷デザインは研究室の院生たちが協力して実施
- ・学内研究者のほか、地域の木彫り熊関係者の協力を得て制作

展示案内



展示詳細



書籍出版



ゲーム展示を攻略せよ

- ・博物館学研究室院生の博士1年次の研究成果をもとに企画
- ・書棚スペースにて連動企画「ゲーム本を攻略せよ」特集図書展示をURAが実施
- ・企画の発展型として北大サイエンスフェスタ、北大総合博物館でも拡大展示を実施、各種メディアで紹介

展示案内



展示詳細



連動図書展示



「深」動物撮影関係論—写真家高橋忠照と出会った動物たち—

- ・動物写真家・高橋忠照氏の協力を得て、文化人類学、地域科学、博物館学の3研究室による初のコラボ企画
- ・高橋氏をゲストに院生企画ギャラリートークイベント実施
- ・制作した図録は、高橋氏のほか、文化人類学、地域科学教員も寄稿

展示案内



展示詳細



ギャラリートーク





ようこそ〈連環画〉の世界へ

- ・博物館学+中国文化論研究室のコラボ企画
- ・定年退職する教授のコレクションと研究成果を学術的かつ楽しく展示
- ・展示ケースガラスのデコレーションや釘で支える本棚、100均グッズ活用壁など、新たな展示手法の誕生
- ・書棚も活用した連動図書展示開催

展示案内



展示詳細



連動図書展示



ヒグマのとなり ←つかず、はなれず→

- ・博物館学授業から発展した文学部+理学部学生による文理協働展示
- ・企画者全員がヒグマ研究の非専門家→専門家にインタビュー、ゴールの変更
- ・見た人の意識・行動変容を促す展示を目指す→プログラム評価手法導入
- ・メイキングブック制作、学外発展展示

展示案内



展示詳細



発展展示



生々流転ーフィールドワークから見たトン族の暮らしー

- ・海外博物館との連携、他大学学生がポスターをデザイン
- ・フィールドワークの成果を展示として制作、村の手作りミニチュア模型
- ・会期中、国際学会参加のため北大にきた現地(中国)の研究者が展示を見学し、意見交換

展示案内



展示詳細





詠むことと読むこと 交錯する現代短歌

- ・文化人類学＋映像・現代文化論研究室のコラボ企画、北海道ゆかりの歌人の協力を得て実施
- ・詠み手(歌人)と読み手(読者)の二項対立を再考
- ・ハンズオン展示「短歌おみくじ」に挑戦。おみくじを引いた人が短歌を投稿できる参加型展示

展示案内



展示詳細



チケ：展 どさっとチケットととっと！

- ・博物館学研究室の学生・教員が手元に残していたミュージアムのチケットを展示するエフェメラル資料展示
- ・個々の研究内容にフォーカスするのではなく「博物館学とは何か？」という博物館学の入り口となる展示を目指す
- ・思い出を投稿できる参加型展示

展示案内



展示詳細



田舎は、消えない ～地域づくりの最前線から～

- ・地域科学研究所のフィールドワーク地 岐阜県郡上市和良町とのコラボ企画
- ・地域と大学が連携・協働してきた地域づくりの実践を紹介
- ・まつり用に共同開発したグッズ展示
- ・和良町から地域づくりの実践者をお招きしてトークセッションを開催

展示案内



展示詳細



トークセッション



書香の森展示の波及効果

■書籍出版

木彫り熊展をウェブサイトで見た出版社の編集担当者から書籍出版企画の提案



■メディアの取材

新聞、雑誌の取材
ラジオ出演



■展示の発展

巡回展示、連動図書展示企画
総合博物館での発展展示
アウトリーチイベントへの出展



■助成金・協賛獲得

展示にかかる費用や、図録制作費用を学会、地域のイベント、フェローシップ助成金から調達
→申請書作成のトレーニングに
文化庁、地元自治体、地元メディアの協賛を獲得

■講師等依頼

展示のテーマに関連した市民講座の講師依頼

■学術雑誌に掲載

展示実践報告を学術雑誌に投稿・掲載

■関連イベント開催

ギャラリートークおよび展示協力者とのトークイベント

■市民との交流

関連テーマの市民講座受講者が
見学会開催、学生が展示解説



■国際交流

海外学生グループへの展示解説
展示テーマに関するディスカッション
展示で取り上げた地域の研究者が国際学会参加時に見学訪問



■専門家からのフィードバック

展示を見た専門家から社会課題解決のために一般の人々への専門知識の伝え方の参考になる、との意見をいただいた

■入試広報

展示をウェブサイトで見た受験生が、大学院・研究室・研究テーマ選択の参考にした

■展示メンバー・手法の広がり

博物館学の学生→異分野研究室、学部生、他学部、他大学、地域社会の方々、海外へと拡大する連携先
ハンズオン展示、参加型展示等新たな展示にチャレンジ
→異分野融合研究の足がかりに

研究成果のアウトリーチ

- ・論文や学会発表以外に研究成果を発表できる場があるのはありがたい
- ・研究成果を展示という形で他分野の方や、一般の方に届けることで、自身の研究を再認識、客観化できた

研究領域の広がり

- ・これまでテキスト研究のみ行ってきた分野で、展示を見た研究室メンバーが、画像や映像などに研究領域を広げるきっかけになった
- ・異分野研究者からコメントをいただき、新たな研究のヒントになった

新たな研究成果・業績につながっていく

- ・展示をすることで、書籍出版という新たな研究成果を出せた
- ・展示実践を論文や学会で発表できた
- ・助成金の獲得実績ができた
- ・講演や寄稿の依頼を受けた

異分野協働

- ・異分野の院生と協働作業することで、分野間の研究手法や言葉の違いを知る経験ができた
- ・異分野ネットワークができて、新たな手法に挑戦したり、別イベントを一緒にやったり、研究の幅や視野を広げることができた
- ・今後の異分野協働に活かそう

トランスファブルスキルの養成

- ・企画から展示、広報までトータルで行う経験はプロジェクトマネジメント力養成につながる
展示以外の分野でも応用可能
- ・異分野の大学院生、地域の方との協働作業はコミュニケーションスキルの養成につながる

キャリアパス形成

- ・大学の学芸員実習では展示作業の一部のみ手伝うケースが多いので、トータルの展示経験ができる「書香の森」展示は、学芸員としてのキャリア形成につながる
- ・異分野協働、展示経験はキャリアの強みとしてアピール可能

組織主催で実施する意義

■ 企画展示ワーキンググループ

2021年度までは、学内の美術作品や教員の研究成果等を限られた2研究室有志で行っていた。
2022年度以降、大学院生の研究アウトリーチの場とするためにワーキンググループを立ち上げ、組織主催事業とした。座長は広報委員長、展示にかかる費用は広報委員会予算より支出
→大学院生の経済的負担なく展示が可能
→独自に助成金を獲得する院生も出てきた
→企画公募により多分野の院生が参加可能に

■ 資料等借用、助成金・協賛獲得への説得力

資料や展示品を関係者からお借りする場合、学生個人で依頼するより、組織から正式に依頼する方が承認が得られやすい。助成金申請書や協賛のためのプレゼンの説得力が増す

■ 事故対応

展示作業時に展示ケースガラスが破損する事故
→組織主催の教育研究活動という位置づけのため学研賠保険を適用して修理した事例あり

■ 情報拡散力

組織的広報を行うため、情報が拡散しやすい

URAの役割

■ 組織的運営の提案

展示に挑戦したい気持ちがあっても、個人や有志では一歩踏み出せない院生、応援したい気持ちがあっても負担と責任の大きさに躊躇する教員
→両者の想いを聞き取ったURAが組織主催事業とすることを執行部に提案

■ 連動展示企画

展示テーマに合わせた特集図書展示を実施。企画テーマを軸に文学研究院の研究分野の多彩さ広がりを見せられる



■ 広報支援

学内共用掲示板による学内広報、公式サイトや公式SNSによる即時的かつ最適化された情報発信
→メディアから取材依頼、出版社から書籍企画提案

■ 改善提案

学生や教員からの運営上の問題点や要望・相談を受ける窓口機能
→立場や研究分野、前提知識の違いから生まれる齟齬を整理し、改善策を提案
異分野協働作業の調整役としての役割



課題

限られた展示スペース

展示スペースが狭くさまざまな制限がある中で
展示を行わなければならない
→新たな展示手法の開拓につながることもある

異分野協働作業の難しさ

展示経験が豊富な博物館学研究室の学生と
展示経験のない他研究室学生との協働は
作業工程、スケジュール感で齟齬が起きがち
→URAが「企画展示ガイドブック」制作を提案

展示というアウトリーチの可能性

展示の専門家は必要か？

専門家はいた方がよい。但し、身近にいなくても、学内
や地域にミュージアムがあれば、学芸員など専門家に相談し
助言を受けることは可能。

展示場所がない場合は？

組織内の小さなスペースでも展示は可能。組織内や地域の
ミュージアムと連携すれば、期間限定の企画展示は実施可能
→**組織内連携・地域連携につながる可能性**

アウトリーチにそれほど労力を割く意義はあるのか？

アウトリーチすることがゴールではない。アウトリーチ活動の
波及効果により新たな研究成果につながる。
楽しみながら異分野協働作業を行うことにより、今後の
研究活動の能力・スキルを身につけることができる。
(異分野融合力、プロジェクトマネジメント力、コミュニケーション力)
→**展示は研究力強化につながる可能性**

URAが関与する意義は？

異分野研究者間の翻訳家、意見調整、相談窓口の役割
広報活動の工夫、組織運営の改善・工夫などさまざまな
経験と実践を積める
→ **URAの能力開発につながる可能性**
→ **win-winな関係構築＝次の活動につながる可能性**